

# つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

## “古道に残された中世の足跡”

### 雑司が谷駅構内遺跡解説板 展示替え



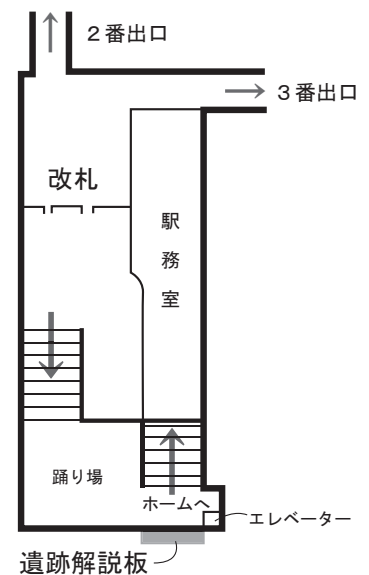
2009年秋に新しくなった東京メトロ雑司が谷駅構内の遺跡解説板

東京メトロ副都心線 雑司が谷駅構内の遺跡解説板が10月に展示替えされました。前は遺跡全体についての概説でしたが、今回はテーマを中世の遺構と遺物に絞っての詳しい説明となりました。見つかった遺構は道の跡と地下式坑。これらの遺構やその周辺では、中世の土器や陶器、中国から輸入された銭、板碑などが出土しています。いずれも中世という時代を特徴付ける重要な意味を持ったものです。ここでは、それぞれがどのように重要なのか説明しましょう。そして、より豊かに中世という時代をイメージしていただければ幸いです。

(両角まり)



道の跡...中世には東海道・東山道といった古代からある大幹線に加えて、個々の地域をつなぐように新たに道が設けられていきました。そこには地域と地域が網の目のようにネットワークされていった様子を垣間見ることができます。





地下式坑...地下式坑は地中深くに掘られた穴で、中世に盛んに造られました。集落の周辺に造られることが多く、人々の旺盛な活動を示しています。



中世の土器や陶器...愛知県常滑産の陶器の大甕、三重県伊勢地方の土器の破片などが出土しました。遠く東海地方にまで及ぶ物と人の交流を示しています。



板碑...板碑は板状の石で造られた供養塔です。その登場と盛行は、中世仏教の新しい供養のあり方と民衆への広がりを実に反映しています。

## 藤堂家染井屋敷の発掘調査 続報

前号でご紹介しました、染井遺跡三菱地所駒込四丁目第二マンション地区の続報をお届けします。後半では藤堂家染井屋敷に特有の堀や掘立柱の堀のほか、新たな発見が相次ぎました。

方形竪穴は興味深い遺構のひとつです。床には石が等間隔に据えられており、何らかの土台として使われたようです。江戸時代後半から明治初頭まで機能していた堀や、複数の堀も発見



方形竪穴。半間（約90cm）間隔で礎石が並んでいます

されています。大名屋敷がどのように使われたかを示す貴重な発掘調査となりました。

またこの調査では遺跡見学会を10月10日に三菱地所株式会社のご協力により、豊島区教育委員会が主催いたしました。約200名もの方

が見学に訪れ、また多くの方々にご協力を頂いたことで、大変盛況のうちに終わることができました。心からお礼を申し上げます。

（高木翼郎）



見学会では実際に調査中の堀も見ることができました

江戸時代の陶磁器や伊賀焼などの出土品の説明を聞く見学者



---

---

## 文化財展 2009 が終了しました

---

---

前号にてお知らせした「豊島区の文化財展 2009」は、11月13日に無事に終了しました。

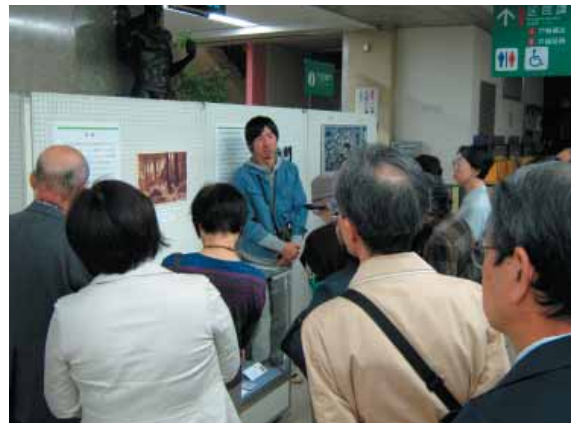
今回は鬼子母神の参道脇に展開した料理茶屋を展示のテーマとしました。出土資料から江戸時代の料理茶屋の雰囲気を伝えるにはどうしたらよいか頭を悩ませながら準備しましたが、いかがでしたでしょうか。



上：出土した魚の骨

下：推定復原した大きさの鯛パネルを貼っています

埋蔵文化財を守る仕事は発掘調査や整理報告だけでなく、埋蔵文化財がどうして大切なのかということ伝えることがとても大事です。文化財展は場所や期間の制約はありますが、埋蔵文化財が持つ豊かな情報を知ってもらえる貴重な機会です。今後も埋蔵文化財に親しめる展示を企画したいと思いますので、来年も楽しみにしてください。（山田俊輔）



勤労福祉会館の講座「遺跡が語る豊島区の姿」でも展示の見学をしました。資料を前に解説を聞くとより理解も深まります

---

---

## 平成 21 年度事業報告・会計収支報告

---

---

平成 20 年 10 月 1 日から平成 21 年 9 月 30 日までの事業と、これに伴う会計収支をご報告いたします。発掘調査では、豊島区教育委員会と連携して区内 29 か所で合計 34 件の埋蔵文化財試掘調査・本調査を実施しました。これにより新しい事実が明らかになり、地域の歴史を考えるうえで新しい知見を得ることができ、きました。雑司が谷遺跡では鬼子母神参道沿いの料理屋跡のほか、長崎一丁目遺跡においては区内初となる古墳時代後期の竪穴住居を一棟の発掘調査などといった大きな発見がありました。報告書作成につきましては『巣鴨町 』（第 2 分冊）が刊行されています。普及啓発事業では染井遺跡、雑司が谷遺跡で発掘速報の掲示や、区役所口ビーにて「谷端川流域にひそむ遺跡」と題した展示、東京地下鉄副都心線雑司が谷駅構内の遺跡解説板の設置と保守点検などを行っております。人材育成につきましては、毎年夏季に行なっている体験発掘「Let's try！考古学」は、この時期に適切な発掘調査が生じなかったため、次年度早々に実施することとなりました。

平成 22 年度の事業も、文化財の保護・普及啓発活動等に力を入れてまいります。

特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数(延人)	受益対象者の 範囲および人数	支出額(千円)
発掘調査	埋蔵文化財包蔵地等での遺跡の発掘調査・試掘調査および基礎整理作業	10月1日～9月30日	豊島区内	104人	豊島区民 不特定多数	60,858
整理調査	発掘調査の記録・出土遺物等の整理作業	10月1日～9月30日	豊島区 巢鴨複合施設内	66人	豊島区民 不特定多数	6,762
報告書作成	報告書3冊の編集・刊行への協力	10月1日～9月30日	豊島区 巢鴨複合施設内	23人	豊島区民 他 450人以上	269
普及啓発	「つたのは通信」および「発掘速報」発行、遺跡見学会実施等	随時	豊島区内	48人	主に豊島区民 不特定多数	298
人材育成	実施せず					

平成21年度 会計収支計算書

(平成20年10月1日から平成21年9月30日まで)

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

(単位:円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
入会金収入	7,000		
会費収入	24,000		
賛助会費収入	18,000	49,000	
2 事業収入			
発掘調査事業	70,874,568		
試掘調査事業	3,934,417		
整理調査事業	833,880		
報告書作成事業	269,850		
普及啓発事業	298,200		
立会調査・保守業務	106,260	76,317,175	
3 補助金等収入			
短期借入金収入	1,000,000	1,000,000	
5 その他収入			
利息収入	26,889	26,889	
収入合計(A)			77,393,064

科 目	金 額		
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 発掘調査事業費	60,858,910		
(2) 整理調査事業費	6,762,557		
(3) 報告書作成費	269,850		
(4) 普及啓発事業費	298,200	68,189,517	
2 管理費			
賃 金	4,270,841		
厚生費	2,252,868		
顧問料 (税理士報酬)	162,000		
研 修 費	39,272		
役 務 費	58,275		
需 用 費	486,248		
施 設 費	217,100		
使用料・賃借料	636,492		
租 税 公 課	80,200	8,203,296	
3 その他支出			
短期借入金返済支出	1,000,000	1,000,000	
収入合計(A)			77,392,813

当期収支差額(A) - (B)

251

前期繰越収支差額(C)

124,461

平成21年度 会費収支計算書

(単位:円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
入会金収入	7,000		
会費収入	24,000		
賛助会費収入	18,000	49,000	
収入合計(A)			49,000

科 目	金 額		
II 支出の部			
1 会費・入会金支出			
会報発送料	8,520		
ハガキ	5,000		
消耗品	147		
		13,667	
収入合計(A)			13,667

当期収支差額(A)－(B) 35,333

前期繰越収支差額(C) 63,666

次期繰越収支差額(A)－(B)＋(C) 98,999



～ 事務局より～

平成21年度 決算をご報告いたします。

会計収支計算の結果、251円の収益が前年度繰越額と合わせて124,712円となりました。正会員・賛助会員様の会費は主に発送手数料が多く支出し、前年度繰越額と合わせて98,999円となりました。これに伴って、今年度は郵送分の「つたのは通信」をカラーバージョン化など、楽しい企画を考えていきたいと思っております。こんな事をしてほしいなどご希望がございましたら、ご意見などをメールにてお寄せください。

今年度も特定非営利活動法人としま遺跡調査会をよろしく願いいたします。



書籍紹介



# 全ては、一個の壺から始まった

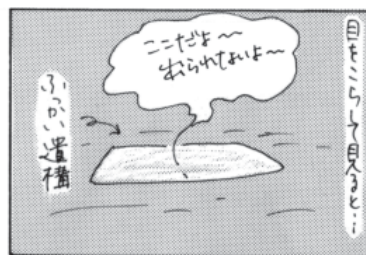
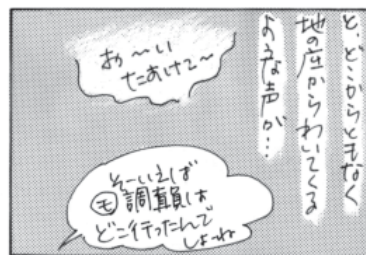
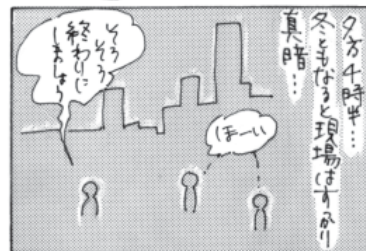
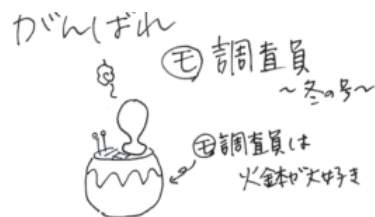
石川日出志 著

『「弥生時代」の発見 弥生町遺跡』

普段、テレビや新聞などで弥生時代を扱ったものを見ると、たいがい「卑弥呼」や「邪馬台国」という単語を見聞きする。また、弥生時代の始まりが500年位さかのぼった、というニュースが世間を騒がせたのも記憶に新しい。ともあれ現在、弥生時代とは、本格的な農耕社会が成立した紀元前後の数百年間を指す言葉として使われている。しかし、弥生時代が紀元前後の昔であるとなぜ分かったのだろうか。また、その時代に農耕が始まったとなぜ言えるのだろうか。そもそも、なぜ「弥生」時代なのか？「農耕社会成立」時代とか「邪馬台国」時代ではいけないのか？？ 結局のところ、現在の弥生時代に関する認識は、長年の考古学研究によって積み重ねられてきた結果であり、また通過点に過ぎない。だから将来「弥生時代」とは違った名称で呼ばれる日が来るかもしれない。少なくとも過去には、縄文文化も弥生文化も、さらには古墳文化も同時代に存在したとする考えもあった。本書は、こうした過去の研究をたどり、現在の弥生時代観がどのように形成されてきたのかを分かりやすく紹介している。全ては1884（明治17）年、文京区弥生町出土の一個の壺から始まった。



石川日出志 著 2008年 新泉社  
定価：1,575円（税込）



㊦調査員が現場で遭難！（笑）しかし人を笑わば穴ふたつ。㊦も取り残されたことがあります。結局、携帯電話で救出してもらいました（泣）。

【編集後記】

祝！増ページ！ 秋はイベントが多いので、会誌の内容も盛り沢山です。編集の仕事も山積みです（泣）。今年度もよろしく願いいたします。（担当：㊦）

編集・発行

特定非営利活動法人  
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：http://www.toshima-iseki.org/

「つたのは通信」の由来：蕨は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蕨の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：島村篤子

マンガ：㊦